



「であい、ふれあい、そして未来へ」 ～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～

第1回みえスタディ・チェックの結果より

前回お知らせしました6年生対象の「令和6年度全国学力・学習状況調査」の結果に引き続き、4年生と5年生を対象に実施された「令和6年度 第1回 みえスタディ・チェック」の結果をお知らせします。「みえスタディ・チェック」は、三重県が独自に行っている「学習指導要領を踏まえ、知識・技能を活用し、自ら考え判断し、表現する力の定着状況を確認するためのテスト」です。

本校の結果とその分析は、以下の通りです。



教科に関する調査の結果より

教科の平均正答率

		国語	算数	理科
5年	本校	70.1	72.9	64.1
	三重県	48.8	56.1	51.8
4年	本校	71.7	71.2	
	三重県	57.8	59.0	

5年生は国語・算数・理科の3教科で、4年生は国語・算数の2教科で学力テストが行われました。本校の各教科の平均正答率は、左の表の通りでした。

4年生・5年生ともに、全ての教科で県の平均を上回りました。「みえスタディ・チェック」は前年度までの学習範囲から出題されますが、どちらの学年もそれまでの学習内容がおおた定着できているようです。各教科の結果を領域別に見てみましょう。

各教科の領域別の平均正答率

	国語	知識技能	話す聞く	書く	読む
5年	本校	75.3	72.2	62.2	50.0
	三重県	55.3	42.3	33.7	34.2
4年	本校	75.0	75.0	83.3	58.3
	三重県	62.3	48.9	27.8	53.2

国語では、4年生・5年生ともに、全ての領域で県平均を上回りました。よく頑張っていますね。あえて言うならば、他の領域に比べると「読む」領域の正答率が低めです。文章の中から問題文で指定された段落を抜き出す設問が苦手な傾向が、どちらの学年にも見られました。段落ごとの

内容や場面の移り変わりを正しく捉える力を、さらに伸ばしていく必要があります。また、「知識・技能」の領域でも県平均を上回っているものの、漢字の書き取り(4年「きかん」を「期間」、「ちきゅう」を「地球」に書き直す)や送り仮名(5年「まったく」を漢字で書いたときの送り仮名として正しいものを選ぶ)に関する設問では、県平均を下回っていました。習った当時は書けていたはずの漢字や送り仮名が正しく書けないのは、復習不足ですね。5年生では、文の中における修飾と被修飾の関係をとらえる設問(「おいしそうな」がくわ

しくしている言葉として適切なものを選ぶ)でも、県平均を下回っていました。

これらのことから、国語における本校の子どもたちの課題として、「漢字の書き取りの定着不足」と「文章の内容を、段落ごとの場面の移り変わりや段落相互の関係に着目しながら、正しく読み取る力や経験の不足」があげられます。

算 数		数と計算	図 形	データの活用	測 定
5 年	本 校	79.4	61.1	81.5	61.1
	三重県	59.5	51.8	51.6	59.2
4 年	本 校	83.3	58.3	66.7	33.3
	三重県	64.4	53.8	49.0	56.9

算数では、4年生の「測定」以外の領域では、どちらの学年も全て県平均を上回る結果でした。特に、「数と計算」「データの活用」の領域では、ほぼ全ての問題で県平均を上回っています。

す。小数や分数などの意味を理解し、計算を正しく行うことができます。また、グラフや表から必要な情報を適切に読み取ることができます。

一方で、4年生の「測定」の領域では、県平均を下回りました。この領域に関する問題は、1問のみ出題されましたが、以下のような問題でした。

- 6 ともやさんは、午前11時40分に家を出発して遊園地に向かい、同じ日の午後1時20分に遊園地に着きました。家を出発してから遊園地に着くまでに何時間何分かかりましたか。

この設問では、「日常生活に必要な時間を求めることができるかどうか」をみていますが、本校児童の正答率が33.3%ということは、3人に1人しか正解できていません。時刻に関する計算が苦手な傾向は5年生でもみられます。5年生の「測定」の領域では、かろうじて県平均を上回っていますが、時刻の計算では本校の正答率は44.4%と県平均を下回っています。5年生の場合は、以下のような問題でした。

- 8 なおきさんは、午前10時45分に家を出発して、同じ日の午後1時30分におじさんの家に着きました。家を出発してからおじさんの家に着くまでに、何時間何分かかりましたか。

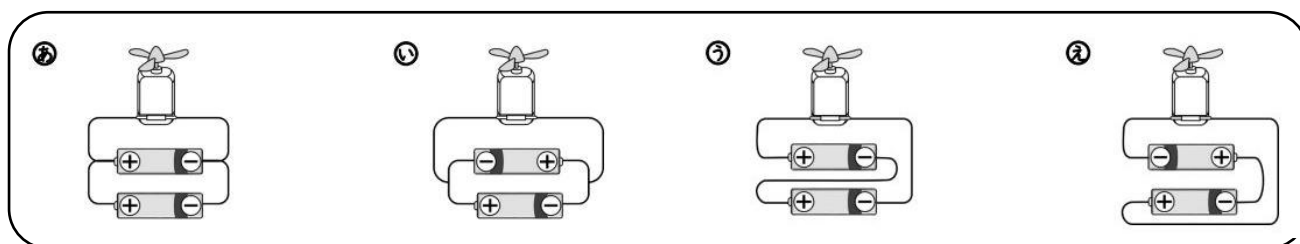
どちらの問題も、出発時刻と到着時刻との間の時間を求める問題です。普段の生活の場面の中でも、時間がどれだけかかるか・かかったかを求める機会が多いと思うのですが、4年生・5年生ともに苦手というのが不思議ですね。頭の中に時計を思い浮かべながら考えることが、うまくできていないのかもしれませんが。5年生の「図形」領域の中の、「長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を説明する」問題でも県平均を下回っていましたが、これもやはり2つの四角形のうち一方を動かしてできる図形のイメージを、頭の中で上手く思い浮かべることができていないことが原因とみられます。

これらのことから、算数における本校の子どもたちの課題として、「問題として示された場面を、図や絵で適切にイメージし、問題の解決に役立てる経験の不足」があげられます。特に、算数の文章問題では、①語句や文章の内容を理解する ②問題の状況をイメージする ③式をたてる ④計算して答えを求める という流れで問題を解いていきます。イメージ力を鍛えるには、まずは問題の状況を実際に図や絵を描いて考えることからはじめ、慣れてきたら頭の中だけで思い浮かべて考えてみるトレーニングをすると良いでしょう。そのためには、練習問題をたくさん解いてみる必要がありますね。

理 科		エネルギー	生 命	地 球	粒 子
5年	本 校	61.1	72.2	61.1	77.8
	三重県	50.5	59.2	46.7	60.2

理科は5年生のみの実施でした。他教科と同様に、全ての領域で県平均正答率を上回りました。

理科の基礎的な知識・技能や科学的な見方・考え方が、概ね身についているとみられます。しかしながら、全22問のうち県平均正答率を下回った問題が4問ありました。今回のテストで本校児童の正答率が最も低かった問題は、「エネルギー」領域での「かん電池のつなぎ方とモーターの回り方」について問う設問でした。2個のかん電池をつないだ図の中から「モーターが回らないつなぎ方を選ぶ」問題で、9人中2人しか正解できていません。



㊸は「並列つなぎ」、㊹㊻は「直列つなぎ」で、㊹のつなぎ方では電気は流れません。学習した際には覚えていたと思うのですが、忘れてしまっている人が多かったですね。また、県平均正答率に対して最も差が大きかった(-33.2%)のが、「4(4)資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選択する」問題でした。資料から、カブトムシが「植物(落ち葉やじゅ液など)を食べる」「さなぎになる」ことを読み取って、食べ物とさなぎになるかで昆虫を分類した表の中の当てはまる部分を答える問題です。本校児童は、3人に1人の割合でしか正解しておらず、残りの人は「さなぎにならない」や「動物を食べる」グループに入れていました。本校児童の場合、カブトムシを知らないのではなく、表の意味がよく理解できなかったのではないかと思います。他にも、問題文をよく読んで、条件に従って回答する必要がある問題が苦手な傾向がみられました。

これらのことから、理科における本校の子どもたちの課題として、「既習内容の復習不足」と「問題を正しく読み取り、条件に合わせて回答する経験の不足」があげられます。

学習や生活等に関する質問の結果より

「みえスタディ・チェック」でも、子どもたちの生活や学習の様子などをアンケート形式で問う調査が行われました。以下に4・5年生全体の結果を示し、特徴をまとめてみました。

※ 数値は、各質問に「当てはまる・している」「どちらかといえば、当てはまる・している」と回答した割合の合計(%)です。

【基本的生活習慣等に関すること】

質 問 項 目	本 校	三 重 県
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	80.0	79.2
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	86.7	88.3
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(スマホ等を使ったゲームも含む)をしますか *3時間以上の回答	20.0	33.0
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯やスマホでSNSや動画視聴等をしますか(学習・ゲームを除く) *3時間以上の回答	20.0	21.7

毎日、同じくらいの時刻に寝ている・起きている児童の割合は、ほぼ県平均なみで、規則正しい生活ができている児童が多いようです。平日1日当たりのテレビゲームの時間が3時間以上と回答した児童の割合も、県平均より少なくなっています。しかし、テレビゲーム・動画視聴ともに4時間以上と回答した児童も複数おり、家庭でのゲームやスマホ利用について見直す必要がありそうです。



【自己有用感、達成感、挑戦心、地域や社会への関心等に関すること】

質問項目	本校	三重県
自分には、よいところがあると思いますか	53.3	82.2
将来の夢や目標を持っていますか	80.0	88.2
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか	60.0	82.4
学校に行くのは楽しいと思いますか	73.3	84.1
今住んでいる地域の行事に参加していますか	73.3	71.5
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	73.3	79.6

地域行事へ参加している児童の割合を除き、ほぼ全ての項目で県平均を下回っています。中でも、自分にはよいところがあると思う児童の割合と、失敗を恐れずに挑戦する児童の割合が県平均を大きく下回っています。誰しもが、良い部分と悪い部分を持っています。互いの良い部分を認め合い、悪い部分を注意しあって直していけるといいですね。また、4月にも言いましたが、「失敗は成功の第一歩」です。失敗を恐れてチャレンジしないことよりも、チャレンジして失敗したことから学び、できることやわかることを増やしていきましょう。

【学習習慣、学習環境等に関すること】

質問項目	本校	三重県
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	66.7	70.8
学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか ＊1時間以上の回答	46.7	44.8
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか ＊1時間以上の回答	33.3	43.4
学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか。 ＊30分以上の回答	33.3	37.2

以前より三重県では、学習時間や読書時間が全国平均に比べて少ないことが課題になっています。しかも県全体の今年の学習時間・読書時間の質問結果は、昨年度に比べて悪化しています。そして本校の結果は、その県平均と同程度かまたは下回っています。「家庭学習の習慣づけ」を図ること、「家庭学習の質（学習内容）と量（学習時間）の充実」を図ること、「読解力を育むための読書習慣の定着」を図ることが求められます。

今後の取組について

各教科の調査結果から見えてきた本校児童の課題から、「既習内容の復習による基礎・基本の定着」「練習問題をたくさん解いて、問題の内容・意図を正しく読み取り、学習した内容を活用する経験を積むこと」に取り組む必要があります。学校では、朝の短時間学習や授業の始めなどを利用し、既習内容の復習や練習問題に取り組む活動を増やして課題改善に取り組めます。ご家庭でも、学習習慣（自主学習を含む）・読書習慣の改善に向けたお声がけをよろしくお願いします。